

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) ・社会のために役立つと志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ・基礎・基本が定着し自律的な学びの学校 ・夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校
----------	--------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針		I 学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価			
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的・対話的・深い学びの創造	自ら学ぶ力を育てる授業づくり 選択肢と自己決定学習者情報端末の活用による授業改善	・選択肢と自己決定のある授業作り(個別最適な学び) ・学力分析に基づく学力向上の取組(学び直しの場の設定、小中連携による授業研究) ・共に学ぶ集団づくり ・学習者情報端末活用による積極的な授業改善	①校内検定テストの正答率 ②QUの結果をもとに、学級指導を行い、要支援児童の割合を減らす。 ③担当教科で学習者用端末を使い授業改善を行う。	①昨年度比 2P アップ(経年比較) ②前期より、後期を減らす。 ③各学期1回以上	①校内検定漢字92%(前年比+2) ②算数85%(前年比-2) ③要支援児童(通常学級・特別支援計8学級)4月・7人 ④6学級(75%)	①50% ③75%	C	・校内漢字検定では、効果的なドリル学習が展開できているが、算数の力は、ほぼ前年程度である。 ・QUの分析結果をもとに、重点的に支援している児童を決め、月に1度の生徒指導委員会で取組を全職員で交流している。 ・初任者は、教科書を使った指導が精一杯で、効果的に学習者情報端末を活用することができなかった。	・効果的な学び直しプリントの作成と取り組み方について、校内で共有し、担任の経験年数による差を少なくしていく。 ・2学期の自由進度学習の単元づくりに、学習者情報端末を積極的に活用できるような研修を進めている。 ・取組を継続する。	○			・外部講師を活用した授業研究を充実させてください。 ・どの学年も二人で話し合う場面があり、主体的な姿が見られました。
		家庭学習の見直し	・家庭学習の習慣化 ・学び方指導の充実	①児童一人一人の実態に応じた課題の工夫 ②家庭学習の提出率を100%とする。	①実施した100% ②100%	①75% ②100%	①75% ②100%	B	・一人一人の実態に応じた家庭学習の提示は、特別支援学級では100%であった。実際には今後も通常学級では難しい。 ・家庭学習をその日のうちに提出させることは、教員・児童ともに習慣化している。	・チャレンジデーを活用し、自分で今の課題に応じた学習内容を決定し、実施する力をつけさせていく。 ・取組を継続する。	○			・チャレンジデーの活用に期待します。 ・クロムブックがあり、家庭学習をしやすいう環境にあると感じました。
豊かな心	自己肯定感が高い心豊かな子どもの育成	自己指導能力の向上 不登校未然防止 地域貢献意識の向上	・生徒指導の三機能を生かした指導と生徒会活動の活性化(自治能力の育成) ・SSRの活用、相談体制の充実 ・自主参加による地域ボランティア活動の充実	児童アンケート肯定的評価の割合	・「自分から進んで挨拶をした」児童アンケート90%以上。 ・「よりよい学校、学級にしよう」とがんばっている。」児童アンケート90%以上。	あいさつ82.3% よりよい学校・学級86.6%	あいさつ82.3% よりよい学校・学級86.6%	B	・昨年度までは、児童会の活動の中に「あいさつ隊」があり、「あいさつ名人」などの取組も実施されていた。コロナ禍でそのような取組が実施しにくくなったことで、校内におけるあいさつへの関心が薄れてきたことも影響しているように感じる。別のアンケートの「地域の人のあいさつをされているか」という項目で、高学年は92.1%が肯定的な評価をしていることから、地域ではあいさつを心がけている様子がわかる。 ・「よりよい学校、学級にする」ということの具体がわかりにくいよう、掃除や係活動などの具体を挙げて聞いたアンケートには、肯定的な評価が90%を超えている状況がある。これは、児童会(6年生を中心に)が、屋の放送を活用し、「久井小の宝(よいところ見つけ)」を放送することで、より具体的な行動を提示することによって、同様な活動を積極的にやっている子どもがいることがわかる。	・コロナ禍という状況ではあるが、廊下や階段でのあいさつを職員が励行し、子どもへの意識の定着を図る。その一方で、児童会が中心となって、再び「あいさつ運動」に変わる取り組みを考え、実施できるようにしていく。 ・「学級・学校をよりよくなる」とはどのようなことか、日常の些細な行動であっても、誰かのために努めることがその一歩であることをわかりやすく提示し、小さなことからコツコツと子どもたちが、できるようになっていく。そのために、現在実施している「久井小の宝」の取組や掃除時間の反省のときの「先生から」など、人のために尽くしている姿を取り上げて、伝えられるようにしていく。今後とも、より具体的に取組に対しての肯定的な評価を行える場を設定していく。	○			・体験活動の充実に期待しています。 ・授業の中でも、発言した児童に対し「大丈夫ですよ〇〇の例もありません」と返され、間違いないと思えるようにできていて、勉強になりました。
健やかな体	体力向上と健康教育の推進	新体力テストの分析による重点課題の克服 食育の推進	・新体力づくりテストの分析に基づく体育科授業の工夫改善(全国平均以上を目指す。) ・「金のルール」「食育」による生活指導(早寝、早起き、朝ご飯、食のバランス)	・走力の向上(50m走の記録を全国平均結果より、記録を伸ばした児童の割合)75% ・児童アンケート肯定的評価90%以上	・5月に走力を測定、5年生男女ともに走力が全国平均を下回る。体育に関する指導改善計画に沿って取り組んでいる。5・6年生を対象に走力を測定する予定(10月) ・朝ご飯を毎日とる91.5%	10月に記録をとり全国平均との比較をする。 ・朝ご飯を毎日とる91.5%	A	・コロナ禍の中、外出機会も減り運動不足が感じられる。学校においても、ロング昼休を活用しての外遊びや児童会活動も行っているが、制限がかかるため、運動不足になりがちである。そこで、学級単位での遊びの工夫や授業改善等にも更に取り組む必要がある。 ・朝食をとっている児童が91.5%、朝食をとれていない児童が15人程度いることが分かった。また、食のバランスという点では、課題があるようだ。	・昨年度に引き続き、短縄跳びに校内全体で取り組めるよう働きかける。また、学級活動や授業の中で、児童がしっかりと身体を動かして活動できる内容を行い、それを学級レクリエーションや普段の遊びの中でもできるようにする。 ・引き続き、早寝、早起き、そして朝食をとるというサイクルで規則正しい生活習慣がつくよう、家庭と連携していく。また、体づくりを考えたバランスのよい食事がとれるよう、啓発をしていく。	○			・「金のルール」「食育の重要性」を再確認する必要性がありますね。 ・早寝早起き朝ごはんなど三原市の金のルールをこども園から取り組んでいきたいと思っております。	
信頼される学校	開かれた学校づくりと教職員の資質向上	小中連携教育の成果が保護者・地域に伝わるための情報発信	・学校・学級・保健だよりの発行 ・連携教育だよりの発行 ・HPの積極的な更新 ・園小中連携 ・サービス研修の充実(不祥事ゼロ) ・主任主事を中心とする組織的な学校運営	①各たよりの発行(月1回以上) ②HPの更新(月1回以上) ③幼保小中の連携回数(年4回以上) ④遭遇研修を含むサービス研修(月1回以上) ⑤小中合同の学校経営会議を開催(月1回)	①100% ②100% ③50% ④100% ⑤100%	①100% ②100% ③50% ④100% ⑤100%	A A C A A	・学校により、学級により、保健だよりの発行は定期的に発行し児童の様子について保護者へ伝えることができた。 ・個人情報や著作権の関係から、HPの更新はいったんストップしている。生活の決まり等、月に1回は更新できた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、久井認定こども園と連携する機会が少なかったが、学校便りのやり取りをし、初任者就業体験での訪問時に連携を行った。 ・小中の教務主任が連携をとり、定期的に学校経営会議を行うことができた。	・行事や活動をもとに掲載する学年を決め、学習や各行事の様子を、毎月1回以上学校だよりで保護者へ知らせしていく。 ・サービス研修、学校経営会議については、引き続き計画的に実施していく。 ・HPの更新、個人情報や著作権に配慮して情報発信に取り組む。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら、久井認定こども園と連携し、園児・児童の連携をしていく。	○			・幼保小中の連携をさらに進めてください。 ・就学前の連携をしっかりとっていききたいと思っております。	
働き方改革	教育の質の向上を図るための環境づくり教育の質の向上を図るための環境づくり	「指針」に基づいた学校の取組を推進	・上限目安時間の管理(45時間/月) ・週1回の定時退校日の徹底 ・組織的・計画的な学校運営による効率化	①月の時間外在校等時間を45時間以内	100%	89%	89%	B	・45時間を超えたのは、4月が3名、5月が3名、6月が1名、7月は1名、8月は0名、9月が2名であった。成績時期に計画的に5時間授業にしたり、月の途中で超過勤務の現状を示したりすることで、勤務時間を意識した働き方ができている。	・各主任、主事等を中心に学校全体で業務改善、意識改善を進め、時間外在校等の時間を減らしていく。また、会議の開始時刻と終了時刻を示し、時間内に業務を行う意識を高めていく。	○			・働き方改革と教育活動の充実とは大きな課題ですね。 ・主体的な学びを深めるためには、先生方の準備や工夫も必要かと思っております。日々お疲れ様です。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【: 自己評価 評価】  
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100%  
C: 60% (もう少し) < 80% D: (できていない) < 60%

【I: 学校関係者評価 評価】  
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。  
ハ: 分からない。